

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

神奈川県

学校名

神奈川県立みどり養護学校

人権課題

子どもの人権(いじめ)

対象学年・
取り扱った教科等

高等部1年・生活単元学習

目標・人権教育のねらい

- ・自分のよさや可能性を認識し、自己肯定感を育むとともに、それぞれの生徒が興味・関心が異なることを前提に、自分の個性に気づき、相手を尊重する気持ちを育む。

実施した内容

- ・自分の好きなこと、好きなところ、苦手なことを考え、苦手なことは一人で悩まずに、困ったときは相談するということを確認する。
- ・友達のいいところ、好きなところを見つけ、相手の気持ちを考える。

工夫した点

- ・考えたことを★型の紙に書いてクリスマスツリーに飾ることで、みんなで見合うことができるようにした。
- ・振り返りでは、頑張ったことを発表し、メダルをもらうことで認められていることがわかるようにした。

他教科との連携

- ・道徳では、相手の思いに耳を傾け、相手の立場に立って、思いや考えを理解する力を高める学習に発展させた。

事業成果

- ・知識的側面：友だちと考えや気持ちを伝え合うことの大切さを理解できた。
- ・価値・態度的側面：自己肯定感が高まり、自分を見つめなおすきっかけとなった。
- ・技能的側面：相手の立場に立って物事を考えられるようになった。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

神奈川県

学校名

神奈川県立みどり養護学校

人権課題

子どもの人権(適切なかわり)

対象学年・
取り扱った教科等

高等部2年・特別の教科道徳

目標・人権教育のねらい

・仲間に入る際のスキルを高めるとともに、仲間に入りたがっている友だちを理解する。

実施した内容

・友だちといっしょに遊びたいけれど仲間に入れないうき、どうしたらよいかを考え、言葉にして実践してみる。

工夫した点

・ロールプレイを行うことでより実感を伴う理解へと結びつくようにした。
・ワークシートを使い、振り返りができるようにした。
・友だちの表現は批判しないように指導した。

他教科との連携

・特別活動で、集会のゲームにおいて実際場面を経験した。

事業成果

・知識的側面:仲間に入る際の適切な言葉や態度について知ることができた。
・価値・態度的側面:自他を認める大切さに気づくことができた。
・技能的側面:人間関係を調整する力を身につけることができた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

神奈川県

学校名

神奈川県立みどり養護学校

人権課題

子どもの人権(コミュニケーション)

対象学年・
取り扱った教科等

高等部2年・特別の教科道徳

目標・人権教育のねらい

- ・人との関わりで問題が生じたときに、攻撃的になったり、がまんしたりするのではなく、相手の気持ちを思いやったうえで、自分の意見や気持ちが伝わるように誠実に話すことの大切さに気づく。

実施した内容

- ・気持ちを怒りながら話したり、言い出せなかったりする2つの場面の状況を聞き、言われた相手がどのような気持ちになるか考える。
- ・相手の気持ちを考えながら、自分の伝えたいことを話す場面を見て、演じてみる。

工夫した点

- ・ロールプレイを行うことで、より実感を伴う理解へと結びつくようにした。
- ・ワークシートを活用し、言葉を整理できるようにした。

他教科との連携

- ・国語で、気持ちを表す言葉を学習した。

事業成果

- ・知識的側面:相手の気持ちを思いやることで誠実さにつながることを理解できた。
- ・価値・態度的側面:自分の意見や気持ちを正直に、率直に表現すると同時に、相手の気持ちを理解しようとする態度を身につけることができた。
- ・技能的側面:相互の関係性を大切にコミュニケーションができるようになった。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

神奈川県

学校名

神奈川県立みどり養護学校

人権課題

子どもの人権(生命の安全教育)

対象学年・
取り扱った教科等

高等部1~3年・特別の教科道徳

目標・人権教育のねらい

- ・戦争の悲惨さや戦争体験者の平和への思いを学び、命の尊さに気づく。
- ・講話を通じて、平和の大切さについて理解を深め、周囲を思いやる態度を育てる。

実施した内容

- ・ひめゆり平和祈念資料館の説明員によるオンライン講話「ひめゆりの沖縄戦」を聴く。
- ・学んだことや、考えたり感じたりしたことをワークシートやメッセージカードにまとめる。

工夫した点

- ・生徒が分かりやすい視覚資料の活用、言語表現の工夫などについて、講師と事前に打ち合わせを行った。
- ・行事(沖縄Week)の一環として行い、生徒が関心をもちやすいようにした。

他教科との連携

- ・実施する週を沖縄Weekとし、教科横断的(国語、社会、理科、音楽、美術、体育)に沖縄について学習することで、講話の理解を深めた。
- ・事後学習として、社会科で沖縄戦以外の戦争やSDGs目標16について扱った。

事業成果

- ・知識的側面:多くの命を奪う戦争の悲惨さを知り、命は尊いものだとして理解できた。
- ・価値・態度的側面:戦争を起こさないためにどうすればよいか考える生徒が増えた。
- ・技能的側面:周囲を思いやった行動や言葉かけをする場面が増えた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

神奈川県

学校名

神奈川県立みどり養護学校

人権課題

障害者

対象学年・
取り扱った教科等

中学部1年・特別活動

目標・人権教育のねらい

- ・近隣にある学校や生徒と交流することで、生徒同士の関わりや経験を広げる。
- ・同年代の他校の生徒の前で、自分や仲間を知ってもらえるよう話をしたり、自己紹介したりすることで、互いに認め合う気持ちをもつ。

実施した内容

- ・パラスポーツを通して交流を深める。
- ・互いに自己紹介をして知り合う。

工夫した点

- ・オリジナルのパラスポーツで、一人一人が活躍できるようにした。
- ・交流相手校からのメッセージを貼り出して、振り返りができるようにした。

他教科との連携

- ・体育で、パラスポーツ(ボッチャ、タグラグビー等)のゲームを実施した際、相手の立場を考えて参加する様子が見られた。

事業成果

- ・知識的側面: 自他を認めることができるようになった。
- ・価値・態度的側面: 新しい仲間を大切にする気持ちが芽生えた。
- ・技能的側面: 相手の立場に立って物事を考えられるようになった。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

神奈川県

学校名

神奈川県立みどり養護学校

人権課題

アイヌの人々

対象学年・
取り扱った教科等

高等部1年・社会

目標・人権教育のねらい

・北海道の歴史と文化の中で、アイヌの人々の歴史や文化を学び、文化を尊重し、引き継いでいくことの大切さを理解する。

実施した内容

・北海道の歴史と文化について知る。

工夫した点

・動画を見ることで理解が深まるようにした。
・食べ物や音楽、踊りなど、生徒が興味の持ちやすいことを中心に、体験的学習を交えて行った。

他教科との連携

・総合的な学習の時間では、外国人や障がい者等の問題と合わせて、多様性について考えることができた。

事業成果

・知識的側面：アイヌの人々の生活文化を理解することができた。
・価値・態度的側面：文化伝承の必要性を考えることができた。
・技能的側面：多様性を認め合うことができた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

神奈川県

学校名

神奈川県立みどり養護学校

人権課題

外国人

対象学年・
取り扱った教科等

高等部1年・総合的な探究の時間

目標・人権教育のねらい

・外国語(英語)にふれたり、外国人とコミュニケーションをとったりすることで、言葉や文化の違いを知りよさを認め合うことができる。

実施した内容

- ・英語の歌を聞いて英語であいさつをする。
- ・色についての学習で言葉の違いを知る。
- ・外国人への質問タイムで、言葉や文化の違いを知る。

工夫した点

- ・ALTを招き、直接ふれあうことで体験的な学習となるようにした。
- ・音楽や色など身近な学習教材で興味を持てるようにした。

他教科との連携

・外国語(英語)では、ALTから学んだ言葉から発展させて、英単語や英会話の学習につなげることができた。

事業成果

- ・知識的側面:外国の言葉や文化について知ることができた。
- ・価値・態度的側面:言葉や文化の違いについて気付くことができた。
- ・技能的側面:言葉や文化の違いを知り、よさを認め合うことができた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

神奈川県

学校名

神奈川県立みどり養護学校

人権課題

ハンセン病患者等

対象学年・
取り扱った教科等

高等部3年・保健体育

目標・人権教育のねらい

- ・ハンセン病などの病気について正しい知識を得て、偏見や差別のないように、今後の生活に生かそうとする態度を育てる。

実施した内容

- ・新型コロナウイルス感染症について、感染者が偏見や差別を受けた例を見る。
- ・同様に、過去にハンセン病患者が経験した差別と比較してみる。
- ・差別のない社会(生活)について考え、意見を述べる。

工夫した点

- ・動画を見ることで理解が深まるようにした。
- ・感染症について理解することで、差別がなくなるということが理解できるようにした。
- ・生活に生かせるよう、友達の意見を聞き合う時間を設けた。

他教科との連携

- ・総合的な学習の時間では、外国人や障がい者等の問題と合わせて、多様性について考えることができた。

事業成果

- ・知識的側面：ハンセン病等の病気について理解することができた。
- ・価値・態度的側面：差別のない社会について考えることができた。
- ・技能的側面：自他の意見をもとに生活に生かそうとする態度を育てることができた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

神奈川県

学校名

神奈川県立みどり養護学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

高等部1年・情報

目標・人権教育のねらい

- ・スマホ・携帯電話の安全な使い方とマナーに関する理解を深める。
- ・友だち同士のメールのやりとりやトラブルに巻き込まれないためのルールとマナーを身につけ、相手を尊重する気持ちを育む。

実施した内容

- ・スライドや映像教材を用いての講話
- ①「コミュニケーションアプリを使ったやり取りでのトラブル」編
- ②「個人情報公開することで発生したトラブル」編

工夫した点

- ・生徒が分かりやすい視覚資料の活用、言語表現の工夫などについて、講師と事前に打ち合わせを行った。

他教科との連携

- ・道徳では、相手の思いに耳を傾け、相手の立場に立って、思いや考えを理解する力を高める学習に発展させた。

事業成果

- ・知識的側面：友だちと考えや気持ちを伝え合うことの大切さを理解できた。
- ・価値・態度的側面：トラブルを起こさないためにどうすればよいか考える生徒が増えた。
- ・技能的側面：相手の立場に立って物事を考えられるようになった。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

神奈川県

学校名

神奈川県立みどり養護学校

人権課題

北朝鮮当局による拉致問題

対象学年・
取り扱った教科等

高等部2年・社会

目標・人権教育のねらい

- ・アニメ「めぐみ」の視聴を通して、当たり前の日常を送ることができない人がいることを知る。
- ・横田早紀江さんの言葉を知ること、日常の大切さに気づく。

実施した内容

- ・アニメ「めぐみ」を視聴する。
- ・「人権学習ワークシート集Ⅷ」(神奈川県教育委員会)のワークの一部抜粋内容を行う。

工夫した点

- ・導入でアニメ「めぐみ」を視聴することで、言葉や紙面の資料での説明よりも明確にイメージできるようにした。
- ・前半のワークを中心に行うことで、生徒たちにゆっくりと考える時間を設定した。

他教科との連携

- ・道徳で、人の心の痛みや思いに共感することを学習することに発展させた。

事業成果

- ・知識的側面:「早く帰ってきて、家族と再会してほしい」と感想に書くなど、拉致問題について知ることができた。
- ・価値・態度的側面:「家族と離れることになってとても悲しい」など、めぐみさんや家族の立場を想像して思いやることができた。
- ・技能的側面:日常生活を大切にすることがみられた。